科目名	病態情報解析学特論	分野・必選別・単位数	専門科目	選択	2単位

担当教員	◎教授(兼) 槇村浩一　准教授 福田晃子　准教授 藤原孝記					科目ナンバー	T4C202
課程	博士後期	配当年次	1～2年	配当学期	通年	授業方法	演習

授業の概要	血液から得られるさまざまな情報をもとに、凝固系、線溶系の異常、遺伝子異常、炎症やショックなどを含むさまざまな病態情報の解析を統合的に行うこと。および、輸血・造血幹細胞/臓器移植が必要となる病態とそれらの症例における移植免疫学的問題点の解析を目標とし、実際の症例や多数の文献調査を通して、知識のネットワークを獲得する。
授業の到達目標	①敗血症が血液凝固異常をはじめとする致命的な病態を引き起こす機序について説明できる。②先天的および(とくに敗血症に併発する)後天的血栓傾向の評価を目的とした、遺伝子ならびに血液情報の活用法について説明できる。③線溶系異常症に遺伝子解析を応用する意義について説明できる。④線溶系の異常を中心とした、血液情報の解析と遺伝子解析の統合的活用法を説明できる。⑤輸血・造血幹細胞/臓器移植における免疫反応の評価法と問題点を説明できる。

授業計画

回数	担当者		行動目標
1	槇村　浩一	教授(兼)	敗血症が血液凝固異等致命的な病態を引き起こす機序について説明できる。①
2	槇村　浩一	教授(兼)	敗血症が血液凝固異等致命的な病態を引き起こす機序について説明できる。②
3	槇村　浩一	教授(兼)	敗血症が血液凝固異等致命的な病態を引き起こす機序について説明できる。③
4	槇村　浩一	教授(兼)	先天的および(とくに敗血症に併発する)後天的血栓傾向の評価を目的とした、遺伝子ならびに血液情報の活用法について説明できる。①
5	槇村　浩一	教授(兼)	先天的および(とくに敗血症に併発する)後天的血栓傾向の評価を目的とした、遺伝子ならびに血液情報の活用法について説明できる。②
6	槇村　浩一	教授(兼)	先天的および(とくに敗血症に併発する)後天的血栓傾向の評価を目的とした、遺伝子ならびに血液情報の活用法について説明できる。③
7	藤原　孝記	准教授	造血系疾患における輸血・造血幹細胞の必要性について説明できる。
8	藤原　孝記	准教授	造血幹細胞移植の免疫系とくにTリンパ球や抗体の働きを説明できる。
9	藤原　孝記	准教授	造血幹細胞後の免疫反応を抑制する方法と問題点を説明できる。
10	福田　晃子	准教授	線溶系異常症に遺伝子解析を応用する意義について説明できる。 線溶系の異常を中心とした、血液情報の解析と遺伝子解析の統合的活用法を説明できる。①
11	福田　晃子	准教授	線溶系異常症に遺伝子解析を応用する意義について説明できる。 線溶系の異常を中心とした、血液情報の解析と遺伝子解析の統合的活用法を説明できる。②
12	福田　晃子	准教授	線溶系異常症に遺伝子解析を応用する意義について説明できる。 線溶系の異常を中心とした、血液情報の解析と遺伝子解析の統合的活用法を説明できる。③
13	福田　晃子	准教授	線溶系異常症に遺伝子解析を応用する意義について説明できる。 線溶系の異常を中心とした、血液情報の解析と遺伝子解析の統合的活用法を説明できる。④
14	福田　晃子	准教授	線溶系異常症に遺伝子解析を応用する意義について説明できる。 線溶系の異常を中心とした、血液情報の解析と遺伝子解析の統合的活用法を説明できる。⑤
15	福田　晃子	准教授	線溶系異常症に遺伝子解析を応用する意義について説明できる。 線溶系の異常を中心とした、血液情報の解析と遺伝子解析の統合的活用法を説明できる。⑥

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間		
	【事前学修】	指定したテキストの次回授業部分を事前に読んでおくこと。 次回の授業内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。
	【事後学修】	授業中の疑問点をまとめ、関連する文献等を利用し、次回授業までに解決しておくこと。
	【必要時間】	当該期間に30時間以上の予復習が必要。

教科書	随時　指示する。
参考書	随時　指示する。
成績評価の方法および基準	口頭試問70%、授業内課題30%
その他履修上の注意事項	試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP1が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。